

<別紙>

No.	テーマ	CMSを合理的に選択するための指標策定	主任教授	担当教授
-----	-----	---------------------	------	------

最終報告会

2013年度研究科生

内容梗概

中間報告会

研究科生	事業所名・所属	日立システムズ ・ 金融事業グループ金融情報サービス事業部第一システム本部第3システム部第2グループ		
	氏 名	小濱 裕太		
大 学	所 属	国立情報学研究所 社会共有知研究センター		
	指導教授	新井 紀子 教授		
	所 属	日本工業大学 情報工学科		
	指導教授	桑野 文洋 准教授		
内 容 梗 概				
<div>1. 研究目的</div> <p>近年のWebサイト構築には、コスト削減等の効果を狙い、Webに関する様々な機能があらかじめ提供されているContent Management Systemが利用されることが多い。しかし、非常に多くのCMSが公開されており、その内容も多様であることから、自らの要求に合致した効果的なCMSをユーザが合理的に選択することは難しい状況となっている。本研究では、ユーザのWebサイトに対する要求とCMSのそれぞれが持つ特性を整理することにより、合理的なCMS選択を支援することができる指標を策定する。</p> <div>2. 研究内容</div> <div>【解決方針】</div> <p>合理的なCMS選択を支援するために、WebサイトとCMSを同じ尺度で測ることができる特性指標を作成する。</p> <div>【アプローチ】</div> <p>特性指標のプロトタイプを作成し、それをブラッシュアップして完成させる。</p> <p>CMSを利用してWebサイトを構築するモデルケースを策定し、そのモデルケースにおける要求・制約・機能と、プロトタイプを関連付けしながら、プロトタイプのブラッシュアップを行う。</p> <p>また、関連付けされた情報の多重度を元にモデルケースにおける特性の重要度を把握する。</p> <div>【成果物】</div> <p>18の特性で構成される特性指標と、各モデルケースにおいてどの特性指標が重要であるかのリストを取得した。</p> <div>3. 成果評価</div> <p>研究により得た特性指標の有効性を、客観的に評価するために、外部の開発ベンダーより評価のコメントをいただいた。</p> <div>【評価点】</div> <p>以前よりCMSを評価できるものが必要だと認識していたため、重要性がわかる。また、項目数が少なく使いやすそう。</p> <div>【要改善点】</div> <p>ビジネスで使うには、各特性がビジネスにどう結びついていのか分かる仕組みがほしい。</p> <div>4. 今後の課題</div> <div>【手順を策定する】</div> <p>特性指標にCMSやWebサイトを落とし込む手順を、具体的に策定したい。現状、特性指標でパラメタ化するには人の技術力に頼っているため、属人性を減らす更なるアプローチをしたい。</p> <div>【CMSを評価する】</div> <p>著名なCMSを、特性指標を利用して評価したい。各特性指標においてCMSを評価する方法を決定していけば実現できると考えている。</p>				

図1. アプローチ全体像

図2. 特性指標の一部

#	特性リスト	特性の具体的な内容
1	サイト規模や目的の一致度合	何のため（業界など）のCMSであるかが一致している 構築期間
2	承認フローの組織への一致度合	承認やワークフローのカスタマイズできる範囲
3	レスポンス、スループット、ターンラウンドタイム等を高速化する仕組みがあり実現できる度合	静的ページと動的ページの使い分けやページキャッシュ ディスク高速化（HDD/SSD） 高速化ツール（Google mod_pagespeed等） プロトコル（HTTP1.1/ HTTP2.0/ SPDY等）等
4	サーバー機として選択できる構成や資源が目的と合致している度合	運用に必要なサーバやクライアントの構成 クラウド（SaaS/PaaS） / オンプレミス サーバーの複数並列稼働への対応 ドメイン数の上限 サーバー資源 サーバーOS ウェブサーバーソフト（WAS） DBMSの種類、バージョン 動作するCGIの種類、バージョン 利用可能なディスク容量 メモリ最大利用量 アップロードするファイルサイズ1つ当たりの制限